



「手話言語をブルーライトで輝かせよう」 市民・地域・社会をひとつにチャレンジプロジェクト2025

郡山城天守台ライトアップ

日時＝9月23日(火・祝)18時30分～20時

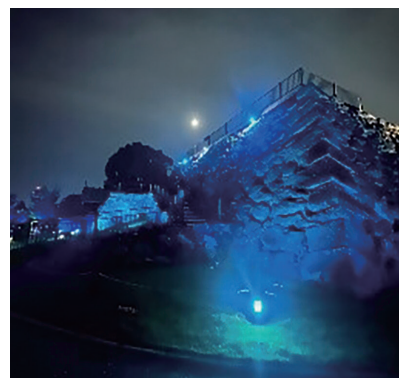
毎年、9月23日は「手話言語の国際デー」です。

「手話言語の国際デー」は、2017年12月19日に国連総会で決議されました。決議文では、手話言語が音声言語と対等であることを認め、ろう者の人権が完全に保障されるよう国連加盟国が社会全体で手話言語についての意識を高める手段を講じることを促進するとされています。

2025年6月25日に「手話に関する施策の推進に関する法律(手話施策推進法)」が施行され、9月23日を「手話の日」とすることが決まりました。

手話施策推進法には、手話が重要な意思疎通の手段であることが位置づけられ、手話を使って暮らせる環境整備等を国や自治体の責務であることも明記されています。

今年も大和郡山のランドマーク
郡山城天守台をブルーにライトアップ!!



問 障害福祉課(内線540・FAX) 55-2351)



市長てくてく城下町236

秀長が残した輪は 今もここにある

大和郡市長 上田 清

来年、2026年の大河ドラマ「豊臣兄弟!」(NHK)の放送を契機に本市の魅力をさまざまな形で発信しようと、昨年結成された秀長さんプロジェクト推進協議会で検討を重ねていたロゴマークと冒頭のキャッチコピーが完成し、先日公表されました。

キャッチコピーというのは、catch(捕まえる)とcopy(写し、原稿、広告文など)を組み合わせた和製英語ですが、お客さまの興味や関心を引き付ける宣伝文句のことです。

では秀長が残した「輪」とは?

まずは、秀長が秀吉を含む家族や家臣たちとの間に築いた結束の「輪」が思い浮かびます。

そのうえで民との間に築いた信頼の「輪」。

箱本十三町によって築かれた自治の「輪」。

筒井順慶に始まり秀長によって大きく発展した郡山の城下町も、外堀＝「輪」の中にあります。

ロゴマーク(これも和製英語で、図案などの意味で使われます)には、「輪」のまわりにお城や大納言塚、秀長の菩提寺春岳院、源九郎稻荷神社、桜や

紅葉などが描かれていますが、大河ドラマをきっかけに郡山を訪れていただく方々には、「秀長の輪巡り」を通じて新たな出会いやふれあいを楽しんでいただきたいものです。

考えてみれば、人が集まればそこには「輪」が生まれ、その「輪」から人と人とのつながりや絆が育まれていくのではないのでしょうか。

その「輪」と秀長が残した「輪」がつながり、地域と旅人がつながっていく・・・。

このロゴマークとキャッチコピーについては、広く市民団体や事業者の方々に活用いただきたいと考えていますが、使用(無料です)にあたってのルールや申請の方法については、市のホームページに詳しく掲載していますので、ご覧ください。

秀長が残した輪は
今もここにある

